

## 文章の表現I

## 各論9 文章表現のポイント (2) 説明したい時

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] 「説明」の文章の書き方

## 1 前回課題 (文法クイズ) について

課題1: 品詞 (形容詞、形容動詞、動詞) による活用形のちがいを

課題2: 「れる」「られる」の4用法 (可能・受身・尊敬・自発)

課題3: 逆接の接続詞 →前の部分から予測・期待されることに反する内容が、後の部分に書いてあることを示す

## 2 「説明」の文章

ある物事を知っている人が、それを知らない人に対して、その物事の特徴や使い方や性質等を、言語で表現する (教科書 p. 90)。

- 相手は誰か
- その物事の何について説明するのか (教科書 p. 92)

## 3 課題

文節に切りわけて、係り受け (修飾—被修飾) 関係を考える

- (1) 坊主が屏風に上手に坊主の絵を描いた。
- (2) さよならだけが人生だ。
- (3) 富士には月見草がよく似合う。
- (4) 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。

## 4 レポートについて

課題: 5/9の授業課題 であつかった項目からひとつを選び、それについて、4-6個の段落で説明する文章を書く。

授業と宿題を通じて改善していき、最後に完成版を提出 (日程は後日あらためて通知)。

- 自分の意見ではなく、事実・制度・理論・概念・法則・歴史などについての説明を書く
- その物事について聞いたことはあって、意味がぼんやりわかるが、くわしくはわからない、という人に向けて書く
- 文末は丁寧体ではなく、普通体 (「…である。」) を使う
- 根拠について、参照した文献を示すこと (やりかたについては後日)

教科書 pp. 95-98 の文例でいうと、内容の点ではAに、文体の点ではBに近いものを想定するとよい。

## 5 宿題

各自の選んだレポート課題について調べ、何を書くかを考えておくこと。(次回の授業中に、段落を組み立てる練習をする。)